一九九九

中日文化论丛

ちゅうにちぶんかろんそう

浙江大学日本文化研究所
神奈川大学人文学研究所 编

北京图书馆出版社

一九九九
中日文化论丛

浙江大学日本文化研究所
神奈川大学人文学研究所 编

北京图书馆

图书在版编目(CIP)数据

中日文化论丛.1999/浙江大学日本文化研究所,神奈川大学人文学研究所编.-北京:北京图书馆出版社,2001
ISBN 7-5013-1775-5

Ⅰ.中… Ⅱ.①浙… ②神… Ⅲ.文化交流-中日关系-文集 Ⅳ.G125-53

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2001)第 02989 号

书 名 中日文化论丛——1999
ZHONG RI WENHUA LUNCONG
著 者 浙江大学日本文化研究所
神奈川大学人文学研究所 编

出版 北京图书馆出版社(原书目文献出版社)
发行 (100034 北京西城区文津街 7 号)
经销 新华书店
印刷 涿州新华印刷厂

开本 850×1168(毫米) 1/32
印张 9.25
字数 230(千字)
版次 2001 年 3 月第 1 版 2001 年 3 月第 1 次印刷
印数 1-1000

书号 ISBN 7-5013-1775-5/G·485
定价 16.00 元

目　录

留日学生研究报告前言……（日）大里浩秋（1）
中国人日本留学相关资料收集的中间报告
……（日）大里浩秋（3）
关于“对华文化事业”下的中国留学生接收问题
……（日）阿部洋（11）
九十年代中国近代留学史研究述评 …… 田正平（31）
学校教育岗位上的清末浙江留日学生 …… 吕顺长（37）
“九·一八”事变与中国在日留学生问题
……（韩）孙安石（53）
以铁血主义谈中国的教育
——浙江留日学生的素质教育观 …… 何扬鸣（66）
阳明学与基督教……（日）铃木范久（77）
理性灵魂与感性灵魂
——耶稣会传教士在日本的信仰传播及其
矛盾冲突 …… 戚印平（85）
国家神道思想源流之管见 …… 牛建科（113）
从一个侧面看日本最初对尼采思想的吸收
……（日）铃木修一（126）
拉斯金、布鲁克哈特、文艺复兴与近代
……（日）鸟越辉昭（143）
试论唐日贸易的形式 …… 吴　玲（161）
南明人周鹤芝乞师日本说 …… 陈小法（174）
近代中国知识分子神道观的考察 …… 孔　颖（186）

稻作东传之路与舟山群岛 …… 陶和平（205）
三门湾航帮与中日文化交流 …… 杨古城　曹厚德（214）
朝鲜光海君朝琉球世子事件及其绝命诗
……（韩）朴现圭（228）
木工工具所蕴涵的文化
——中日刨子用法的差异 ……（日）西田和夫（244）
日本俳句与中国词曲 …… 陆　坚（249）
中日知识分子之我感 …… 王　勇（260）

附录：
一、论文提要……（268）
二、《中日文化论丛》1991—1998 总目 ……（280）

后记 …… 王宝平（287）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook

目　次

留日学生関連報告へのまえがき……（日）大里浩秋（1）
留学関係資料の中間報告……（日）大里浩秋（3）
「対支文化事業」下の中国人留学生受け入れ問題
……（日）阿部洋（11）
1990年代における中国近代留学史研究の概観
……田正平（31）
清末における浙江籍日本留学生の帰国後の活躍
—浙江各学堂の学校教育を中心に—
……呂順長（37）
満州事変と日本在留中国留学生問題について
……（韓）孫安石（53）
鉄血主義にみた中国の教育
—浙江留日学生の素質教育観—……何揚鳴（66）
陽明学的キリスト教……（日）鈴木範久（77）
理性霊魂と感性霊魂
—イエズス会士の日本における宣教活動
とそれに伴う文化衝突—……戚印平（85）
国家神道の思想理論の源について……牛建科（113）
日本における最初期のニーチェ受容の一側面
……（日）鈴木修一（126）
ラスキン、ブルクハルト、ルネサンス、
そして近代……（日）鳥越輝昭（143）
唐日貿易の形式について……呉　玲（161）

南明人周鶴芝の日本乞師説 …… 陳小法（174）
清末における中国インテリの神道観の
　　変遷について …… 孔　穎（186）
稲作東伝の道と舟山群島 …… 陶和平（205）
三門湾船団と中日文化交流 …… 楊古城　曹厚徳（214）
朝鮮光海君朝の琉球嫡子事件とその絶命詩
　　……（韓）朴現圭（228）
大工道具が文化を語る
　　—道具を押すか引くか— ……（日）西田和夫（244）
俳句と中国の詞曲 …… 陸　堅（249）
中日の知識人
　　—あとがきにかえて— …… 王　勇（260）

付録
　一、論文要旨 ……（268）
　二、『中日文化論叢』1991—1998 総目 ……（280）

あとがき …… 王宝平（287）

留日学生関連報告へのまえがき

（日）大里浩秋

ここに掲載する5編の報告は昨1999年11月8日～9日に神奈川大学で開いた神奈川大学と浙江大学による第9回日中学術交流シンポジウムの一部を構成する「中国人日本留学史研究の現段階」シンポジウムにおいて報告した内容である（ここに掲載するに際して、各自若干の加筆修正を行っている）。

従来、両校のシンポジウムでは各自のテーマでの報告のみが行われており、共通テーマを設定し、且つ両校以外の研究者にも報告していただいたのは今回が初めてで、また共通テーマを中国人日本留学史研究にしたのは、両校にこのテーマに興味を持つ複数の研究者がおり、ここ数年来資料の収集や分析の面で協力しているという背景があってのことである。

さて、11月8日に半日の時間をかけたシンポジウムは、約50名の研究者や学生が参加した。報告者は、浙江大学の田正平氏、呂順長氏、北海道大学の孫安石氏と神奈川大学の大里浩秋の他に日本における日中教育史研究の第一人者である阿部洋氏（福岡県立教育大学）にも加わっていただいた。コメンテーターとしては、蔭山雅博氏（専修大学）、高田幸男氏（明治大学）、周一川氏（お茶の水女子大学）にお願いし、五つの報告に対する感想や意見を出していただき、報告者からの回答を得、さらに参加者と報告者間の質疑応答があった。コメントや質疑応答の中で印象的な2,3点を簡単に紹介すると次のようになろう。

一つは時期の問題。従来、清末期の研究が多かったが、民国期、さらに日中戦争期について研究する必要が語られた。二つに内容の問題。従来、多い外交、政治的側面からのアプローチだけではなく、留学経費(官費や私費)や生活面、或いは卒業者の進路の面からのアプローチも欠かせないとの指摘があった。三つに資料収集の点。大陸や日本だけでなく、台湾にある史料を活用すべきだとの指摘もあった。しかし、討論の詳細は紙面の都合で割愛するしかない。今後、共通テーマによるシンポジウムが益々活発になることを祈っている。

なお、このシンポジウムは1998 年 ~ 2000 年、文部省科研費補助金基盤研究(B)による援助を受けた。

留学関係資料の中間報告

（日）大里浩秋

はじめに

去年から神奈川大学の数人と浙江大学の数人の先生方が共同で「明治期から昭和20年までの日中文化交流に関する資料の収集と分析」という非常に大ざっぱなテーマで文部省科研費をもらうことができました。しかし、実際いま取り組んでいるのは中国人日本留学史に関する資料の収集と分析で、時期や内容を限定せずにとにかく日本留学に関する資料があれば色々集めようという、全く初歩的なところで日本の図書館、それから中国の大都市の図書館や档案館をいくつかまわって1年半ほど経ちました。それで、皆さんのお手元に中間報告と題してお配りしてあるのは誠にお粗末なものですけれども、大体こういうのを見て回って、こういうことを考えているということをお話ししたいと思っております。

一、清末期、留学関連資料

a）私が留学生のことを調べてみようとしたのは数年前に早稲田大学の図書館に清国游日学生監督処が発行した『官報』という記録があり、それにプラスして『経費報銷冊』というのがあるというのを知り、それらをコピーして読んでみたところ、これはなかなか面白い、せっかくコピーしたんだから読んでみよう

ではないかというのがきっかけなんです。それでご承知の方が多いと思いますが、まず、簡単に『官報』と『経費報銷冊』の見所、私が面白いと思った所をお話したいと思います。

これは何れも光緒33(1907)年に発行して、宣統2年末、宣統3年は辛亥革命がありますから、このぎりぎりの前年の最後まで記録されているものです。『官報』は月刊、第1期(光緒33年1月)~第50期(宣統2年12月)、但し、1~7号までは欠号。『経費報銷冊』はほぼ半年刊、全8冊で光緒32年11月分から宣統2年11月分までの会計報告を載せています。時期として考えますと、1905年に中国からの留学生数がピークを迎えて、その後、質的に問題のある速成教育や普通教育など短期の留学を見直そうという動きになりまして、その後は高等教育を重視しようという動きになります。それは、国内的にいえば、日本の文部省に当たる学部ができて、その学部の下に統一的に教育政策が行われ、留学の部門についてもやはりそれまで各省或いは中央の各団体ごとに派遣してきた留学生を統一的に北京の中央が管轄するという動きと重なっています。そして、東京に游日学生監督処ができて、その公式の活動報告書として『官報』がだされ、その中に監督処で取り扱っている多くの事項についての記録を載せているわけです。具体的には短期留学から長期の高等教育重視にみあう形の留学政策、つまり日本側に、国立の高校或いは大学で受け入れる人数を増やすよう交渉すると共に、それらの学校に入学する者を奨励するために、もともと私費生で入ってきた者を官費生に昇格させる政策を実施する経過や、国立、私立を問わず官費生に与える経費面の種々の優遇措置に関する記録を載せているのが『官報』であり、それを会計報告に絞って詳しく書いているのが『経費報銷冊』で、この両方を見ていきますと、清末の1907年から1910年までの中国の留日政策が経費、政策の

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook

面からかなりの程度伺える内容になっていると思います。

そして、この時期の留学生管理の諸政策、官費生とりわけ特約五校入学者の重視は民国以後にも継続されている政策であり、その点でもこの資料は貴重なものですが、これまでの研究ではまだ充分に活用されておらず、今後に残された課題といえます。

b)次に『浙江教育官報』【第1冊戊申(1909年)4月～第20冊宣統2(1910)年4月】というのは偶々去年浙江図書館に行った際に見つけたんですけれども、これは浙江省の内部で派遣している留学生の資料が色々紹介されているもので、浙江以外の省でもこのような性格の官報が当時出されていた可能性があると感じました。この点は前述、游日学生監督処の『官報』と結びつけてこれから調べていく必要があるのではないかと感じています。続いて中華民国期を便宜的に1920年代までとそれ以降に分けて見ていきます。

二、中華民国期(1920年代まで)

a)浙江省教育会発行の『教育週報』が浙江図書館にありました。民国2(1913)年3月の創刊でいつまで続いたものかは確認していませんが、民国初期に省として日本に留学生を送っていることに関連した情報がとびとびですが書かれているもので、同種資料は他の省にもある可能性が大です。

b)北京市档案館には民国2～5年の京師学務局の関連の留日学生に関する文書類が多くはありませんが残っており(J4－1－72、同146等)、その中に前述の『経費報銷冊』とまったく同じ形式で会計報告されている書類がありました。この時期、清末に統一的に出した『官報』のような性格のものがなくて、それぞれの省別に似たような資料が出されていた可能性をうかがわせま

す。

c)早稲田大学の図書館に、中華民国留日学生監督処による民国3年~10年の官費、自費、省別、学校別など各種の名簿があります。また、中国で回った図書館でも民国期を通して多種の名簿があることが確認できました。

d)北京政府教育部档案が南京の第二歴史档案館に多少あるということですが、しかし私自身は未確認です。

三、中華民国期(1930年代以降)

a)上海市档案館にある国民党上海市教育局「有関我国留日学生帰国登記」(Q235 — 109)は、1931年の満州事変の後に多数の帰国留学生が出て、国内の大学がその受け入れをどうするかという事に関する資料です。

b)上海図書館には民国期に刊行された日本関係の雑誌が何種類かありますが、そのうち留学生関係では『留東学報』が日中戦争勃発前の留学生の情況を反映している貴重な内容です【創刊号1935年7月~1937年5月(3巻5期)】。さらに、『留東周報』もでています(全11冊、1937年3月~5月、)。

c)1940年~1945年までの(偽)と呼ばれて保存されている資料があります。例えば、上海市档案館には(偽)上海特別市教育局「関於留日生考選工作的文書(一)(二)」(R48 — 854、同855)があり、第2歴史档案館には(偽)華北臨時政府教育部档案「臨時選派留日学生考試委員会組織及活動情形」(2021 — 499)があり、北京市档案館にも(偽)北京特別市教育局の同様の資料(J82 — 14)がありました。これらは日中戦争勃発後の留学生送り出しの記録として、今後、まとめて読み進める必要がある資料だろうと思います。

d)東洋文庫にある『中華民国国民政府駐日大使館学務档案』。これは民国32年～民国33年の汪精衛政権の駐日大使館の記録文書でこの中に留学生関係のものも含まれています。

e)第2歴史档案館にある南京国民政府教育部档案「有関留学事務之各档案統計表冊(1929年～1949年)」(5－15316)、「抗戦期間留日学生登記審査統計表、自伝及び読書報告等材料(1947～1948年)」(5 — 15355)等。これは最近、王奇生さんの『留学與救国』(広西師範大学出版社、1995年)などに紹介されて色々と明らかになっている部分がありますけれども、私個人も南京の第二档案館に行って、読んでみて、興味を覚えました。特に1947年、8年に教育部留日学生資格甄審委員会に提出した日中戦争時期の留日学生の調査記録中に留日経験を書いた自伝がある点で、これから注意して読んでいく必要がある内容だと思いました。

四、日本側資料

a)外務省外交史料館

すでに多くの方が指摘している事ですが、外交史料館にある留学生関係の資料は極めて豊富な内容を持っております。従来、清末の辛亥革命に至る革命家の動きについて、この資料を利用し、分析した優れた研究が出ていると思いますが、そのような性格の資料の他に、例えば留学生の学費の問題に関して、明治31(1898)年から大正11(1922)年までの日本政府、文部省と中国側とのやりとり等の文書があります(「在本邦支那留学生学費之部」3－10－5－3－5)。そのうち、大正10年から11年に関しては、官費留学生にしろ私費留学生にしろ、生活費に事欠いて、特に官費留学生はお金が届かないということで、日本側にもな

んとか自分達の留学を保証をしてくれるように訴えるような文章が沢山出てきます。

また、「在本邦清国留学生関係雑纂 雑の部第一巻～第四巻」(3－10－5－3－6)は明治32(1899)年から大正10(1921)年までの資料で、革命運動に関する内容もありますけれども、学費、経費に関する資料も沢山あり、その時々の留学生の生活状況に関する調査記録も出てきます。私の関心からしますと、最初に述べた中国側の「官報」その他の資料と合わせながら、外交史料館の資料を読んでいくと、当時の中国留学生の抱えていた生活面の問題が一層、明らかになるのではないかと考えております。さらに、今後、読むべきものとして大正13(1924)年～昭和15(1940)年までの「在本邦留学生関係雑件」全12冊(H－5－0－0－1)等があります。

b)警察資料

警察が内部発行したいくつかの定期出版物は、復刻されていま読むことができますけれども、この中にも留学生の動きが報告され、統計として留学生数が載っています。例えば、『外事警察報』第24号～第33号、大正13(1924)年、「外事警察概況」昭和10(1935)年～昭和17(1942)年等。これらの資料をa)の資料と合わせて利用すると、留学生の社会的、政治的な動きをかなり詳細に知ることができると思います。

c)各大学史、研究紀要、同窓会誌

これまで大学史とか研究紀要の形でそれぞれの大学における留学の状況がかなりの規模で明かになっています。現在、留学生の方も含めて、それぞれ所属の大学に於ける留学生の歴史を詳細に調べた成果が出てきており、一々ここでは挙げませんが、やはり注目する必要があります。

d)各種名簿

日本には例えば、日華学会編の『留日中華学生名簿』(第1版、昭和2年~第18版、昭和19年)や興亜院発行の『日本留学中華民国人名調』(昭和15年)等かなりの数の留学生名簿があり、また、『現代中華民国満州帝国人名鑑』(昭和12年版)等によって留学生出身者の経歴を知ることができ、さらにa)、b)にも留学生の各種統計が載っています。これらを利用した成果はすでに一部に出ていますが、中国側にある名簿や統計とつき合わせた総合的な分析は今後に残された課題といえます。

以上、限られた時間で目にすることができた資料について、中国側と日本側に分けてご紹介し、今後の課題についてもふれました。いろいろご教示ください。

【補足】

上述の報告の後、台北市にある国史館に行く機会があった。短時間の訪問でありながら、事務の方々の協力で留学生関係資料の所在だけは確認できた。以下に要点を記す。

一、清末期について

◎ファイル196の014~032までに、各省ごとの留日学生名簿が保存されている。期間は1906年から民国後の数年間のもの。

◎ファイル196の038—1~6までは、ごく一部が民国期のものであるのを除いて、清末期(1905~1911年)の文書類が保存されている。内容は『官報』に載ったものの原本と覚しきものがあり、『官報』には載っていないものもある。『官報』にのっている各種統計は、ここには殆ど収められていないようである。いずれにせよ、今後、主に『官報』との対比で内容を確認する必要がある。

二、民国期について

◎ファイル196の038 — 7 ~ 22までは、民国1(1912)年 ~ 民国15(1926)年までの各年度「留日卒業生案」または「留日卒業成績表」である。
◎ファイル197 — 066は民国26(1937)年から民国44(1955)年までの留日学生に関する教育部档案である。
◎ファイル066 — 1 ~ 5は、1に民国34(1945) ~ 35(1946)年の日本敗戦直後にまだ帰国していない留学生についての対策の文書等を含むが、それ以外は民国26(1937) ~ 27(1938)年の日中戦争勃発後の帰国学生に関する対策の文書である。
◎ファイル066 — 7 ~ 11は、民国36(1947)年から38(1949)年までの日中戦争時期の留日学生に対する調査や救済策などの文書類が収められている。そのうち、主には留日学生資格甄審委員会にする出類で、ここには南京第二歴史档案館に保存されているのと同様の個人の調査記録もあり、さらにこの問題に関する元留日学生と教育部や省教育局とのやりとりの文書などがあって、南京よりも豊富な内容であることがわかる。
◎ファイル066 - 12は、民国38(1949)年の日本敗戦後にも日本に留まっている留学生に対する救済措置についての文書。
◎ファイル066 - 6は、国民党政権が台湾に移行した後の留日学生への対応に関する文書を収めており、066 - 12に続く内容である。

総じて清末期と同様、民国期についても大陸に保存されている資料と合わせて読まれ、検討されるべき内容である。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook